

# 令和5年度 第3回 青森県介護現場課題解決会議

令和5年12月 書面開催

## ◆議題

議題1 介護現場の課題に対する「対応方針」について

## ◆報告

報告1 青森県介護生産性向上（業務改善）モデル事業所について

報告2 「あおもり介護生産性向上相談センター」の開設について

## ◆委員からの意見

資料1 介護現場の課題に対する「対応方針」について

棟方委員	現場に即した表記でとても良いと思います。
村上委員	基本的な方針を文章化することは重要であるが、文章のみではわかりにくく、かえって伝わりにくい面がある。 県の施策として介護事業経営者、介護従事者のみならず一般県民に対して方向性を示すためには、簡潔に、わかりやすくする必要がある。 文章に加えて、課題、目標、解決の方向性などを箇条書きにする、または図表化して整理することも必要ではないか。
横山委員	「○目的・位置づけ」 介護に従事する者にとって本県の「利用者へのかかわり方」「職場の理想とするあり方」が示されていて、理解しやすくまとめられていて良い。 そんな中、人口減少による人手不足に従事している方々に使命感や達成感を味わいながら生活を安定させられる対策を考えていきたい。 人材教育として感じることは、職場内の世代観。 多様性が取り上げられているが互いの価値観を理解し、どのように伝えたら相手理解できるのかという技術を、経営・管理者とされる社内幹部が学ぶ機会を持つ必要があると考える。現場たたきあげとされる上司は（私も含め）先輩の行動を学び学習した知識とすりあわせて築いてきたが、現在は「ていねいに、相手がわかる伝え方やテクニックが必要」、これからの介護にかかわってくれる人材を大切に育てていく時間が必要と考える。 介護現場で働くことの喜びを体験でき、やりがいにつながられる思

	考の共有を県としてまとめ、取り組む形ができれば、老後も安心青森県とアピールできるのではないだろうか？
工藤(史)委員	<p>基本方針(案)について、一つの文章が長くて読みにくいと思いました。</p> <p>基本方針が一目でわかるような宣言文的なものであるとか、サマリーがあればわかりやすいのではないかと思いましたが、一般的に基本方針を述べる際、そのようなものはあるのでしょうか。</p> <p>「4. 取り組みの方向性」のところで、「留意する。」という文言が多く出てきますが、留意したうえでどのようにするのかというところが、私ならば知りたいです。</p>
工藤(英)委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避けられない課題を明確にし、向かうべき方向性が示されたことで、本会議の意図がメッセージとして伝わります。</li> <li>・多様な課題を客観的に捉え、各種具体的施策を検討・立案し、その効果を評価するためには、継続的な実態把握とモニタリング、各種指標にそった評価、すなわちPDCAサイクルに基づく取り組みを期待します。</li> </ul>

資料2 青森県介護生産性向上(業務改善)モデル事業所について  
(意見なし)

資料3 「あおもり介護生産性向上相談センター」の開設について

青田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容「介護分野における生産性向上及びロボット・ICTに関する相談窓口、セミナー開催等」について意見)</li> <li>ロボット・ICTは生産性向上の手段なので「及び」として並列する表現はなじまないと思う。</li> <li>修正案)</li> <li>「介護分野におけるロボット・ICT導入を含む生産性向上に関する相談窓口、セミナー開催等」「介護分野における生産性向上(介護ロボット・テクノロジー導入含む)に関する相談窓口、セミナー開催等」</li> </ul>
工藤(英)委員	<p>「全世代型社会保障構築を目指す改革の道筋(素案)」でも、あらためて指摘されている業務内容ですので、今後の実績からも実態を捉え、より発展的な施策に結び付くことを期待します。</p>